

祈られるイエス——「ルカによる福音書」

「ルカによる福音書」はマルコ福音書を元にしつつ独自の資料を加えて書かれました。その点はマタイ福音書と同じです。マタイ福音書がイスラエルの伝統を強く意識して書かれているのに対して、ルカ福音書は目標を広く世界に置いています。イエスの系図はマタイではアブラハムから始まる（マタイ 1:1 - 2）のに対して、ルカでは人類の始祖アダムにさかのぼります（ルカ 3:38）。ルカ福音書と使徒言行録の著者は同一人物です。

ルカ福音書には祈られるイエスの姿が目立ちますので、それを中心に見ていくことにします。

1. 3:21 - 22 「民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、『あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者』という声が、天から聞こえた。」

2. 6:12 - 13 「そのころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた。朝になると弟子たちを呼び集め、その中から十二人を選んで使徒と名付けられた。」

イエスが祈って選ばれたのが 12 使徒であり、また私たちもイエスの祈りによって招かれた者です。

3. 9:28 - 30 「この話をしてから八日ほどたったとき、イエスは、ペトロ、ヨハネ、およびヤコブを連れて、祈るために山に登られた。祈っておられるうちに、イエスの顔の様子が変わり、服は真っ白に輝いた。見ると、二人の人がイエスと語り合っていた。モーセとエリヤである。」

4. 10:21 「そのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。『天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。』」

イエスの祈りの言葉そのものが記されている箇所は多くありません。その貴重な箇所の一つです。ここには神への賛美が溢れています。詩編 115:15 「天地の造り主、主が、あなたたちを祝福してくださるように。」が思い出されます。

5. 11:1 - 2 「イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに、『主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください』と言った。そこで、イエスは言われた。『祈るときには、こう言いなさい。“父よ、御名が崇められますように。御国が来ますように。……”』」

「主の祈り」はこことマタイ 6:9 - が元になっています。祈ることそのものと祈りの内容を、私たちはイエスさまから学ぶのです。

6. 22:17 - 19 「そして、イエスは杯を取り上げ、感謝の祈りを唱えてから言われた。『これを取り、互いに回して飲みなさい。言うておくが、神の国が来るまで、わたしは今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。』それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。『これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。』」

最後の晩餐の場面。この祈りと分ち合いから聖餐式が始まりました。

7. 22:39 - 46 「イエスがそこを出て、いつものようにオリーブ山に行かれると、弟子たちも従った。いつもの場所に来ると、イエスは弟子たちに、『誘惑に陥らないように祈りなさい』と言われた。そして自分は、石を投げて届くほどの所に離れ、ひざまずいてこう祈られた。『父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。』〔すると、天使が天から現れて、イエスをカづけた。イエスは苦しみもだえ、いよいよ切に祈られた。汗が血の滴るように地面に落ちた。〕イエスが祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに戻って御覧になると、彼らは悲しみの果てに眠り込んでいた。イエスは言われた。『なぜ眠っているのか。誘惑に陥らぬよう、起きて祈っていなさい。』」

イエスの命がけの祈りです。この祈りをとおして、イエスは十字架の苦難を受け入れられたのです。

8. 23:33 - 34 「『されこうべ』と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。〔そのとき、イエスは言われた。『父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。』〕人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。」

十字架の上での執り成しの祈り。

9. 23:44 - 46 「既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。イエスは大声で叫ばれた。『父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。』 こう言って息を引き取られた。」

10. 24:50 - 53 「イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。」

祈るイエスは、ここで祈られる（祈りを受ける＝礼拝の対象）イエスとなります。

イエスは私たちのために祈り、私たちと共に祈ってくださる方であるとともに、私たちの祈りを聞いてくださる方なのです。

(2006/12/10 井田 泉)